

新年号

京印季報



新春特別企画

回丹支部・福陵支部・丹後支部 各支部長並びに
支部会員の皆様との記念座談会

「組合創始130周年に向けて、“これまでのこと”と“これからのこと”」



目次

年頭所感／京都府印刷工業組合 理事長 笹原あき彦	2
京都府知事 西脇 隆俊	4
京都市長 門川 大作	5
京都商工会議所 会頭 塚本 能交	6
京都府中小企業団体中央会 会長 阪口 雄次	7
(一社)日本印刷産業連合会 会長 藤森 康彰	8
全日本印刷工業組合連合会 会長 滝澤 光正	9
京都府製本工業組合 理事長 大入 達男	10
京都府紙器段ボール箱工業組合 理事長 戸田 正和	10
(一社)日本グラフィックサービス工業会京都府支部 支部長 高屋 伸啓	11
京都紙工協同組合 理事長 西村 公男	11
京都シール印刷工業協同組合 理事長 山田 裕彦	12
京都グラフィックコミュニケーションズ協同組合 理事長 木村 進	12
新春特別企画	
口丹支部・福陵支部・丹後支部 各支部長並びに支部会員の皆様との記念座談会	
「組合創始130周年に向けて、“これまでのこと”と“これからのこと”」	13
中村安博氏(元副理事長) 瑞宝単光章を受章される	20
京印工組顧問(前理事長)中西隆太郎氏 京都府産業功労表彰を受賞される	21
京都府知事表彰・京都府職業能力開発協会会長表彰を受賞される	22
全印工連オンラインフォーラム2020開催	23
～印刷感謝祭～ 本木祭並びに組合員物故者を偲ぶ会開催	24
京都Webものづくりフェア2020	
京都府印刷関連団体協議会と「ものづくりコラボ展」サイトを配信中	27
組合創始130周年記念事業 統一デザインコンペ グランプリ作品決定	28
機関紙「京印季報」リニューアル(令和3年春号より)	
に伴う制作・印刷業務 委託先の決定	29
労務対策セミナー開催	30
秋期研修会開催	31
教育研修セミナー開催	32
笹原理事長、並びに関連団体代表者各位の年頭ご挨拶を配信	33
10月・11月定例理事会開催概要	33
委員会だより／組織委員会	34
共済委員会	35
支部だより／下支部	36
会合だより／京都府印刷関連団体協議会	37
／京都青年印刷人月曜会	38
関連団体だより／京都府製本工業組合	40
／京都府紙器段ボール箱工業組合	41
統計だより／材料価格定点調査・集計結果より	42
組合員ニュース	43
新型コロナウイルス感染症に関する事業者向け支援制度について	45
研修会等収録DVD貸し出しのご案内	47
書籍のご紹介	48
組合員異動	48
事務局からのお知らせ	49
印刷会館利用状況	50
組合日誌	51
表紙イラストレーション作者のご紹介	52
パートナーシップ会員異動	52
編集後記	52



表紙イラストレーション コンセプト

「風あげ」

富士山と日の出、それらの中に、風によって舞う凧を描いてみました。風あげは、昔ながらのお正月の遊び、それと正月の風物詩といえ、初日の出。その二つを合わせて、お正月、新春を感じれるイラストになっていると思います。また、風あげには男の子の健康や成長を願うという意味もあり、健やかに元気に過ごせる年を迎えたいと思い描きました。

京都芸術大学(旧京都造形芸術大学)3回生 北條 勝大



変化に未来を求め、 前に進もう

京都府印刷工業組合 理事長
笹原あき彦



あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は組合活動にお力添えいただき誠にありがとうございました。本年もなにとぞ変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、去年は新型コロナウイルスにより、私達は組合活動において、かつて経験したことのない大きな影響を受けました。コロナ禍以前と同様の運営方法では事業や各種会議、委員会諸々を開くことが困難であった環境の中、感染拡大防止に細心の注意を払い、withコロナに沿った新たな仕方で事業を運営し、そしてご参加くださった組合員の皆様をはじめ、役員職員の皆様に心から感謝を申し上げます。

「朝の来ない夜はない」

これは文豪吉川英治の言葉(一節)です。コロナ禍を乗り越えた先にある、Happy Industry「人々の暮らしを彩り幸せを創る印刷産業」の実現に向け、私達は歩んで行かなければなりません。

その手始めとして本組合では、多種多様な人材の採用や脱炭素社会等の環境問題に対応する「働き方の改革」、自社の強みをさらに活かした「事業の承継」を推進すると共に、全印工連が示す、「かねてよりの課題であった人口減少に伴う市場縮小という背景に加え、私達印刷会社にはお客様の課題を解決するソリューション・プロバイダーとしての役割が求められており、旧来の請負型製造業から脱却した新しい成長産業への模索が現在も続く」という、私達の進むべき一つの方向に注視しつつ、「この様な中で、新しい社会経済においても引き続き私達の産業が社会のお役に立てるために、印刷産業構造改善の一つである生産性向上デジタルトランスフォーメーション(DX)の研究を進める」ことに、京印工組としても積極的に取り組みたいと考えています。

いよいよ本年には「組合創始130年記念式典」を開催します。withコロナ、afterコロナの中でこそその運営方法で大会の成功を願い、さらには京都の印刷



業界の持つ、情報を取り扱う産業としての高いポテンシャルをもって、力強く未来を開き築いて行きたいと存じます。

2021年の丑年は、「新しき芽生えを見いだす」年といわれています。ゆっくりであっても着実に物事を進め、全ての組合員の皆様が、「暮らしを彩り幸せを創る産業」を実感・実現するため、皆様と共に歩んで参りたいと願っております。

組合員の皆様にとりまして、どうか本年が健やかで幸多き一年でありますよう心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。





夢や希望を持てる^{あした}未来へ 上を向いて歩もう

京都府知事
西脇 隆俊



あけましておめでとうございます。組合員の皆さまにおかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症によって、府民生活や社会経済活動がかつて経験したことのない甚大な影響を受けた年でありました。さまざまな困難の中、感染拡大防止にご協力を頂いているすべての府民の皆さま、事業者の皆さま、医療従事者をはじめ関係の皆さまに、心から感謝と敬意を表する次第であります。

人類は長い歴史において幾度となく感染症の脅威にさらされながら、必ず乗り越えてきました。「下を向いては、虹を見つけることはできない

～You'll never find a rainbow if you're looking down～」

これは世界の喜劇王、チャールズ・チャップリンの言葉です。コロナ禍を乗り越えた先にある、未来に夢や希望を持てる新しい京都に向かって、われわれは上を向いて歩んで行かなければなりません。そのための足元固めとして、医療・検査体制については関係機関の協力のもと、京都府が責任を持って対応してまいります。また、地域経済に活力を取り戻し、府民の皆さまの生活と雇用をしっかりと守ってまいります。その上で、京都府総合計画に掲げた将来像の実現に向けて、府民の皆さまが実感できる積極的な施策を推進し、全庁一丸となって取り組みをさらに加速させていく所存です。

いよいよ本年には「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」が、翌年には「ワールドマスターズゲームズ2021関西」が開催されます。人類が新型コロナを克服した証しとして大会を成功に導き、さらには2022年度中の文化庁の全面的な移転など、京都の持つ文化の力で、地域の隅々まで光が満ちるように元気な未来を築いてまいります。

本年は丑年。牛の歩みも千里と申すように、一步一步、力強く歩みを進め、成功を導く年とされています。地域に子どもたちの笑い声が響き、すべての府民が笑顔で過ごせる京都を実現するため、皆さまと共に歩んでまいりたいと願っております。

皆さまにとりまして、本年が健やかで幸多き一年でありますよう心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。



コロナ禍を乗り越え、 京都の明日を共に描きましょう！

京都市長
かど かわ だい さく
門川 大作



新年あけまして、おめでとうございます。

コロナ禍において、感染拡大防止に多大な御尽力を賜っている京都府印刷工業組合の皆様や市民・事業者の皆様。医療・福祉・子育て支援・教育はじめ、それぞれの現場で献身していただいている方々に、心から感謝申し上げます。

この危機の中で、市民の皆様のいのちと健康、暮らしをしっかりと守る。そして、困難な時こそ京都ならではの「地域力」「市民力」をいかし、府市協調、国や経済界等との連携を深め、新たな課題の解決に挑戦する。昨年は、その決意を新たに、市民・事業者の皆様と一体となって行動した一年でした。

本市では、コロナ前から市民の健康を支える保健師を段階的に増員。人口1万人当たり2.3人(政令市平均1.56人)で、100万人以上の都市でトップの体制を確保しておりますが、コロナ禍において更に体制を拡充しました。

また、初の感染者が確認された直後から、全国に先駆けて24時間対応の相談窓口を設置。京都府、医師会等と連携し、診療・検査体制も抜本的に拡充するなど、いのちと健康を最優先に「正しく恐れる」対策を進めてまいりました。

さらに影響が長引く中、市会での御議論を経て、6度にわたる補正予算で、“雇用を支える”中小企業・地域企業の事業継続を徹底支援。人々の“心を潤す”伝統文化・産業や芸術を担う方々の御活動もサポートしてきたところです。

個人の日常から社会の有り様まで大きく変わるウィズコロナ時代。デジタル化、働き方改革、新たなビジネスモデル…。危機をチャンスに、スタートアップの力で社会的課題を解決。京都経済センターを核に、京都がその先頭に立つ。「観光都市」から「観光課題解決先進都市」へ。新たに作成した「京都観光行動基準(京都観光モラル)」で、観光客、事業者、市民の皆様とともに感染防止と地域の豊かさにつながる新しい観光モデルをつくる。本年は、そんな京都の在るべき姿を共に描き、挑戦と改革を進めてまいります。

構造的に脆弱な財政構造、地方交付税の減額、そのような中でも一人ひとりを徹底的に大切にする福祉、教育、子育て支援、防災減災などの取組が、「都市特性評価」3年連続1位などの輝かしい実績へとつながりました。しかし、コロナ危機で大幅な税収減となり、来年度500億円もの財源が不足する見込み。持続可能な行財政の確立へ、全庁挙げて取り組みます。そして、「誰一人取り残さない」SDGs、持続可能な社会の実現に向け、感染防止、経済回復、環境対応、社会・市民活動…。これらをしっかり並立させ、全力を挙げてまいります。

京都の千年の歴史は、あまたの危機を乗り越え、発展してきた歴史。歴史に学び、オール京都で力を合わせ、未来を展望していく決意です。

本年もよろしくお願い申し上げます。



「コロナショックの克服に向けて ～新たな成長への一步を踏み出す年に～」

京都商工会議所 会頭
塚本 能交



謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年から続く新型コロナウイルスの感染拡大は、京都経済に甚大な被害を与えました。感染収束の見通しが立たない中、まずは感染防止策を徹底し、同時に社会経済活動をしっかりと動かし、していくことが重要となります。企業経営においては、感染リスクを抑えながら新しい変化やニーズに応じて、より積極的にビジネスを展開していくためのチャレンジが求められる一年になります。

歴史を振り返れば、京都企業はこれまでに幾多の危機を乗り越えてきました。その基盤となったのは、多様な分野で活躍する企業が住み分けをしながら知恵を共有化できる、京都独自の「しなやかな関係性」であると考えています。我々はこの強みを生かしつつ、次世代を見据えたビジネスのイノベーション・リノベーションを進めていくことが必要です。そのためには、会員の皆様が相互の連携をさらに深め、京都の底力を発揮していくことが重要であると考えております。

京都商工会議所では、「守りから攻めへ 今こそ京都の底力」をスローガンに、今年3月末までを重点期間と捉え、会員の皆様を強力に支援しております。コロナショックの影響を受けた企業に対する事業継続の支援に加えて、飲食店を応援する「ちょこっと幸せキャンペーン」や、新たな生活様式に対応する商品・サービスを発信する「京商支縁サイト」などを展開し、新たな需要の喚起や販路の開拓をサポートしています。また、オンラインを活用した企業の人材獲得やテレワークの実施に向けた支援など、会員の皆様が新しい社会に適応していくための支援にも積極的に取り組んでおります。アフターコロナを見据えて、会員の皆様の新しいチャレンジを、これからも力強く応援してまいります。

本年の干支は「^{かのとうし}辛丑」。「辛」は辛く大変な出来事を乗り越えて全く異なるステージへ移行する状態を指し、「丑」は協力して結び付きが強くなることを意味しています。京都の底力を結集させることでコロナショックを乗り越え、新たな成長ステージへの道を切り開くような明るい一年になることを祈念申し上げ、新年のあいさつといたします。



令和3年 年頭所感 組合連携による助け合いこそ 中央会の使命

京都府中小企業団体中央会 会長
阪口 雄次



年頭のご挨拶を申し上げます。

コロナ禍の多難な年に会長を拝命し、半年が過ぎました。やりたいこと、やらねばならないことを中小企業の「現場目線」で企画し、具現化していく。又、「出来る限りの合意形成を得る」。この二つのキーワードのもと、事業を推進していくこととお約束いたしました。

山積する中小企業経営の課題解決を目指す中央会事業運営の中、コロナ対策を喫緊の課題として、昨年7月に「WITHコロナ・POSTコロナ対策委員会」を立ち上げました。京都府・京都市のご支援のもと、中央会ならではの実効性のある対策をアウトプットすべく事業を展開いたしております。10月に、コロナ感染症の影響拡大について緊急調査を実施いたしました。500を超える事業所より回答を得、分析の結果、中小企業・中小組合がお互いに助け合い、この困難を克服していくことが、何より重要だと痛感いたしました。このような劣悪な状況下だからこそ、中央会の目的「中小企業者の組織化を推進し、その組織、事業及び運営の指導を行い、中小企業団体の組織的な活動を通じて中小企業の振興を図る」を再認識し、その目的達成のため、今後の事業運営を鋭意進めて参る所存です。

WITHコロナ時代の新生活様式構築につきましても、今、現場で起っていることを一工夫することによって課題解決と新生活様式構築に繋げていけるという信念のもと、組合連携を推し進め、大いに議論を深め、対応して参りたいと思います。

先行き不透明なコロナ後の経済活動、誰もが経験したことのない生活環境を見据えて、組合も参画事業所も共に繁栄していけるよう、中央会ならではの事業を企画し、共助の使命感を共有し、会長として覚悟をもって推進して参りたいと思います。

これまで継続的に進めて参りました事業承継問題、人材確保・育成、最低賃金問題等、中小企業経営を圧迫している様々な課題、とりわけ「働き方改革」における「同一労働・同一賃金」が本年4月より中小企業においても施行されます。ネガティブな批判を並べ立てるのではなく、中央会が主体となり建設的に議論を深め、行政のご理解、ご支援のもと、他の中小企業支援機関とも連携し、課題解決に繋がられるよう事業展開を図って参ります。

結びに、丑年は今までにない新しいことが始まる年になると言われております。皆様にとりまして健康で幸多い年になりますことを心からお祈りし、年頭のご挨拶とさせていただきます。



2021年 年頭所感

(一社)日本印刷産業連合会 会長

藤森 康彰



令和3年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

年頭にあたり、所感の一端を述べたいと思います。

昨年は全世界が新型コロナウイルスの脅威にさらされ続けた一年でした。国内においても、人々の暮らしや経済活動に大きな打撃を与えました。多くの産業と深くかかわる印刷業界にとっても、その影響は甚大なものとなりました。

昨年9月に発足した菅内閣は新型コロナ対策を最優先課題とし、その対策と経済との両立、デジタル社会の実現、グリーン社会の実現、地方創生などを重要課題に掲げています。また、アメリカでも政権が引き継がれようとしており、今後、地球環境に配慮した政策へと舵が切られるものと考えられます。

こうしたなか、当連合会は、引き続き「グランドデザイン」を指針とし、SDGsに基づいた事業を推進してまいります。

特に地球環境への取り組みとしては、地球温暖化防止のためのCO₂排出量削減やVOC排出抑制、そしてリサイクル推進などを行うとともに、印刷業界独自の認定制度である「グリーンプリンティング(GP)」の普及とGPマークの活用の周知に注力します。また、「環境優良工場表彰」の応募企業拡大を図り、業界を挙げて環境負荷低減に努めます。

また、コロナ禍で加速するデジタルトランスフォーメーション(DX)の研究を推進し、デジタル技術の活用による生産性向上を目指してまいります。

さらに、地方創生の取り組みとしては、2月に『じゃばにうむ2021』を開催し、好事例の報告により水平展開を図ります。

今年は、延期されたオリンピック・パラリンピック東京大会の開催が予定されています。新型コロナがもたらした新しい生活様式、新しい技術を踏まえた大会は、世界が一丸となってウイルスに打ち勝った証として、私たちにとっても新たなスタートになるものと思います。

希望を胸に、私ども日本印刷産業連合会は、本年も会員10団体と賛助会員、関連団体の皆様と共に、関連省庁のご指導のもと事業を推進してまいります。皆様方には、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

皆様方のご発展とご健勝を祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

全日本印刷工業組合連合会 会長
滝澤 光正



新年、明けましておめでとうございます。

旧年中は、当連合会に格別のご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げますとともに、本年も一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

また、昨年10月、初めてのリモート開催となりました「全印工連オンラインフォーラム2020」では、全国の多数の方々にご視聴いただき、全印工連事業をより一層ご理解賜り、併せて、将来の業界発展に向けての課題や方向性を共有し、確認することができました。これもひとえに、全国の印刷工業組合の役員、組合員、関連業界の皆様のご理解とご協力の賜物と深く感謝を申し上げます。

さて、昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大という大きな嵐に見舞われ、日本はもとより世界の社会経済にリーマンショック時以上の深刻な影響がもたらされました。様々な場面において大きな変化を余儀なくされ、働き方が変わり、産業の立ち位置や姿が変わりました。また、政治やマスメディアなどの日々の風向きにも惑わされ、それに一喜一憂し、「真実」や「本質」を見極めることの難しさを改めて痛感した年でした。

このような状況の中、全印工連では、ブランドスローガンとして「Happy Industry～人々の暮らしを彩り幸せを創る印刷産業～」を掲げ、DX（デジタルトランスフォーメーション）や「幸せな働き方改革」を中心とする各種事業を着実に進め、全国の組合員企業の1社1社がHappiness Companyを目指すプロセスを発信し続けてきました。特にDXの推進にあたりましては、プロジェクトチームを新たに立ち上げ、印刷産業全体の生産性向上と高付加価値のサービス提供産業への転換に向けた大きな一歩を踏み出しました。本年も引き続き、各側面からの経営支援を目的とする全印工連の各種事業を積極的に推進することにより、「Happy Industry」へと向かう道を迷うことなく進んでまいりたいと考えております。

新型コロナウイルス感染症拡大の終息にはまだ多くの時間を要すると思われますが、本年は、産業として、組合として、企業として、この時期だから出来ることを組合員の皆様と共に考え、実行し、この未曾有の環境の中で「新しい印刷産業」のしなやかさと強さ、そして持続的発展を実現するポテンシャルを証明する年にしてまいりたいと考えています。

2021年が皆様にとって明るく希望に満ちた素晴らしい一年となりますよう心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。



年頭のご挨拶

京都府製本工業組合 理事長

大入 達男



新年、明けましておめでとうございます。

謹んで新年のご挨拶申し上げます。旧年中は、京都府製本工業組合に対しまして多大なるご協力、ご支援を賜わり、厚く御礼申し上げます。

昨年は、日本のみならず世界の人々にとって厳しい試練の年でした。

先日、戦場の図書館といって、第二次世界大戦中のアメリカで、戦地で過酷な体験をしている兵士に大量の本を送ったという話を聞きました。本が、戦地での荒んだ兵士の心を癒やし、立ち直らせるのに大きな効果を上げたそうです。

古来より人は、苦勞して手に入れた書物でイマジネーションを高め、心の拠り所にしてきました。自宅で長く過ごすことが多い今、書物が心を癒し、豊かに時を過ごすことができることに気が付かれたことだと思います。我々のこの業界は、豊かな時を過ごすお手伝いをしているという意識をしっかりと持ちたく思います。

また振り返りこういった時だからこそ、普段出来ていない技術を見つめ直し、自分のものにしていく機会でもあります。さらに、受け継ぐ者へ何を残し何を渡していくかを、深く考え直す機会にもできたらと考えます。

今回の試練はこの業界にとって明るい話題に繋がるよう、知恵を絞る時だと思います。

「明けぬ夜はない」と言います。

知恵を出し、助け合い、実行に移して行く年になります様願っております。

最後になりましたが、この令和3年が皆様にとりましてご健康であり、御多幸の年となりますことをお祈りしての新年のご挨拶とさせていただきます。

新年挨拶

～コロナ過での組合～

京都府紙器段ボール箱工業組合 理事長

戸田 正和



新年あけましておめでとうございます。旧年中は当組合運営に於きまして、御協力を賜り誠にありがとうございました。

皆様方に於かれましても、コロナ禍では大変なご苦勞をされたこととお察しいたします。とりわけ京都は、ここ数年に亘り続いてきた爆発的なインバウンド需要が突然断ち切れ、また、学校行事や祇園祭などの縮小や中止されたことによる影響は、観光産業のみならず、京都の地場産業にも大きな影響をもたらしました。私たち京都の紙器・段ボール業界もそれらに関連する箱の受注がほぼゼロになるなど多くの影響を被りました。

一方、組合活動に於いては総会懇親会、ボウリング大会、親睦事業など組合員・協賛会員との交流は果たせなかったものの、青年部会が中心となり各種補助事業を活用して組合ホームページのリニューアルや京都webものづくりフェアでのクリスマスツリー組立キット配布&デザインコンテストを実施するなど新たな活動にチャレンジしました。

親組合としても、自治体への段ボールベット・感染対策パーティションの供給をはじめ、組合独自の段ボールベット開発にも着手して自治体との災害協定締結に向けた準備も進められるなど、新たな分野への挑戦も始められました。

さて、コロナ禍により社会全体とともに産業構造も変化しつつあります。たとえ、コロナ禍が収束したとしても、かつてと同じ世界には戻らないでしょう。私たち製造業の生産現場にはテレワークの導入は困難ですが、ロボットの導入やIT化、デジタル化など変化に対応していくために考えることは山ほどあります。

組合としても、会議や研修会などへのオンライン導入や組合ホームページを活用して双方向での情報通信などに取り組む考えです。

また、印刷関連協議会とも緊密に連携して京都市・商工会議所・中央会の情報もタイムリーに発信できるよう考えておりますので、何卒、本年も宜しくお願い致します。



年頭所感

(一社)日本グラフィックサービス工業会京都府支部

支部長 高屋 伸啓



新年あけましておめでとうございます。

旧年中は格別のご支援ご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。

本年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

昨年は新型コロナウイルス感染症に始まり、今まで経験したことがない未曾有の状況が世界中に広がり続けた一年でした。当組合においても、厳しさは同じで会員数が少し減りましたが、ネガティブな事は昨年までで、今年はウィズコロナに対応すべく組合員一同前を向いて行きたいと念願しております。半沢直樹ではないですが、倍返ししたく思っております。

毎年恒例の京都ものづくりフェアにおいても、例年同様、関連7団体のコラボにより11月に合同出展を予定していたところ、この度はWebによる「京都Webものづくりフェア2020」となりましたが、京都産業の魅力は充分に伝えられたと思います。印刷関連団体のWeb小間ブースも、京都府印刷工業組合様のご尽力で素晴らしいものが出来ておりますので、是非ともご閲覧下さい。

3月31日まで開催予定です。

[<https://kyotomonodukuri.com>]

今年は延期になっていた東京オリンピックも開催される予定です。コロナを克服した日本の姿を世界に発信して行く良いチャンスですので、アフターコロナを期待しております。

厳しい経営環境の下ではありますが、これから京都の印刷業界の皆様と手を取り合い前進して行く所存です。

結びにあたり、関連団体各位の益々のご発展とご健勝を祈念し、新年のご挨拶と致します。

新年のご挨拶

京都紙工協同組合 理事長

西村 公男



あけましておめでとうございます。

令和3年は、干支歴では「辛(かのと)丑(うし)」の年となります。「辛」は陰の金性で、文字通り「辛い」という意味があります。「丑」は、陰の土性を意味する十二支です。「丑」という字は、つかむ、からむという意味があり糸偏を付けると「紐」。結ぶ、何かに決着をつけるという意味があります。

この二つの文字、「辛丑」が意味する年は前半は辛さが続きますが、後半にはそれが一段落し、徐々に新たな知恵が湧いてきて、運気が上昇し始める年となります。

昨年は、待ちに待った東京オリンピックが開催される年でしたが、新型コロナウイルス感染が世界中に広がり欧米の多くの都市でロックダウン、日本では緊急事態宣言が発令され生活様式が大きく変わり、その結果「未来が早くやって来た」と言えます。通常なら5年から10年かかって変化することがこの1年で起こりました。たとえば、テレワーク・Web会議・オンライン診療など。恒例の「京都ものづくりフェア」もweb開催となりました。

大変な時代になりました。大変とは、「大きく変える」「大きく変わる」と書きます。時代の変化に合わせて印刷関連業界も変わっていかなければ取り残されます。ピンチはチャンスです。印刷関連7団体の技術力やノウハウなどの情報をお互いに交換し、知恵を出し合い新たな一歩を踏み出す年としたいものです。「ウィズコロナ」から「アフターコロナ」へ。

今年が明るく希望に満ちた年となることを心からご祈念いたしまして新年のご挨拶とさせて頂きます。



年頭所感

京都シール印刷工業協同組合 理事長

山田 裕彦



皆様、あけましておめでとうございます。
新しい年を迎えるにあたり謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

さて昨年は、京都シール組合の創立60周年の節目という事で、年始にはわくわくした気持ちでおりましたが、間も無く国内に蔓延し始めた感染症のために全てのリズムが狂われました。夏の祇園祭の時に印刷関連団体の方々にもお集まりいただき、盛大に開催する予定だった記念式典も延期になり、その後もどんどん企画自体の縮小を余儀なくされました。結局、年末に役員のみで晴明神社に伺い祈祷をしてもらう事と記念誌を発刊するのが組合として出来る精一杯の事となってしまいました。

この目に見えないウィルスは本当に厄介で、世界が受けているダメージは計り知れないものだと思います。そして多くの方が「元には戻らない」とも仰っています。しかも、今後次から次へと新たなウィルスが襲って来る事も考えられるので、「新しい生活様式」に沿った形に我々の行動を変えていかなければならないとも言われています。

では、どの様な事に気を配りながら新しい仕組みを作るべきなのでしょう？私は、ある意味この度の世界的なパンデミックは、地球が悲鳴を上げたからだと思っています。二酸化炭素の排出などに伴う温暖化も止まりそうにありません。ですが、このコロナ禍で世界中の大気汚染が少し改善したとの報告も耳にしました。と言う事を考えると、今後はこれまで以上に環境に配慮した生活様式にすべきだと思っています。出来る限り物流は減らし、ゴミも削減する。中には今までの形に拘って進めない事も出てくるとは思いますが、まずは環境に優しい方向に向かわせる。それが大切だと思います。

今年は合同の新年会も中止になり、年初めから重たい空気ではありますが、まずは出来る事からスタートさせようではありませんか！そして今まで通りには出来ないと言いたたら、どうすれば出来るかを考えて進められる部分から進めていこうではありませんか！

最後になりましたが、業界の皆様の益々のご発展と1日でも早い疫病退散を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とかえさせていただきます。

新年にあたり

京都グラフィックコミュニケーションズ協同組合

理事長 木村 進



新年明けましておめでとうございます。

旧年中はいろいろとお世話になりまして、誠にありがとうございました。

本年も倍旧のお付合いを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

今年こそは一年が終わる今頃には、ほんの少しでも、良くなってきたとお互いと思える、話が出来世の中になっていることを、心から願っています。又新しい年、新しい一年が始まります。このお正月は私達一人一人がいろいろと悩み、考えさせられた例年にない、決意を新たにさせられたお正月でした。この決意を日々大切に守り通したいと願っています。コロナ感染で変わった私達の日常生活、企業活動が、これからどのような変化をもたらししていくのか、そして私達の心が、世の中、世界の価値がどのように変わっていくのか、私達を幸せに導いてくれるような、良い価値観が生まれることを、切に願っています。

今年はオリンピック、パラリンピックが事なく開催されることを願っています。少しでもゆとりをもった心で応援できればうれしい限りです。又私達の日常生活の根底になっているエネルギーが石炭から石油に、そして、新たに水素が変わっていく、気候変動、環境が激変する世の中であって、私達はどのような生き方をすればよいのか考えさせられる一年になりそうです。まだ少し続くと思われる混迷の時代が終息し、私達を幸せに導いてくれるような価値観が生まれることを信じます。混迷の時こそ協同組合の必要性が高まります。より力を合わせて頑張る一年にしたいと思います。

結びにあたりまして、皆様一人一人のご健勝とご多幸を心よりお祈り致しまして、新年の挨拶といたします。

口丹支部・福綾支部・丹後支部 各支部長並びに支部会員の皆様との記念座談会 ～組合創始130周年に向けて、“これまでのこと”、“これからのこと”～



座談会・北部地域懇談会出席者 前列左より 小林 勝氏、中川芳隆氏、笹原あき彦氏、梅原哲史氏、高木 繁氏、小林正行氏
後列左より 内藤一徳氏、藤井康史氏、福野慎吾氏、波部郁司氏、荒川昌浩氏、爲國光俊氏

令和2年10月2日（金）午後3時より、福知山市「ホテルロイヤルヒル福知山&スパ」で開催された北部地域懇談会の中で、北部地域の各支部長並びに支部会員の皆様と、笹原理事長をはじめとする執行部役員との特別座談会が開催されました。

本座談会は、組合創始130周年を迎え、これまでの組合活動、そして支部活動を振り返り、組合や支部組織が「これまでやってきたこと」、そして「これから行うべきこと」について、支部長の皆様よりご意見・ご提言を頂き、組合並びに印刷業界の発展的な未来像を考察することを目的に企画したもので、第2回目の今回は、口丹支部・福綾支部・丹後支部 各支部長の皆様、並びに支部会員の皆様ご参集のもと、活発で充実したディスカッションが行われました。

今回の特集記事では本座談会の要旨をご紹介します。是非ご一読下さい。
（本座談会での新型コロナウイルス感染症についての内容は、座談会が実施された10月2日時点の情報をもとにしています。ご了承の程お願い申し上げます。）

座談会 出席者

笹原あき彦氏〔京都府印刷工業組合	理事長／文屋秋栄(株)
内藤 一徳氏〔京都府印刷工業組合	副理事長・口丹支部長／内藤印刷(株)
高木 繁氏〔京都府印刷工業組合	監事・福綾支部長／(株)タカギ印刷
中川 芳隆氏〔京都府印刷工業組合	理事・丹後支部長／(有)中川印刷
梅原 哲史氏〔京都府印刷工業組合	福綾支部／あやべ印刷(株)
小林 勝氏〔京都府印刷工業組合	丹後支部／三景印刷(株)
小林 正行氏〔京都府印刷工業組合	丹後支部／(株)橋立印刷所
爲國 光俊氏〔京都府印刷工業組合	専務理事／(株)ティ・プラス
波部 郁司氏〔京都府印刷工業組合	理事・広報委員長／(株)波部太陽堂
(口丹支部、福綾支部、丹後支部 支部長・支部会員による記念座談会要旨 発言者の敬称略)	

はじめに

笹原：5月の総会におきまして、組合の理事長を拝命した笹原です。本日はご多忙の中ご参集頂きましたこと、心より厚く御礼申し上げます。



組合が創始130年という大きな区切りを迎えるに当たり、その記念事業として、広報委員会主催で支部長の皆様との座談会の企画が立案されました。日頃、組合活動を支えて下さる支部長様から、印刷業界や組合活動の今昔、そして組合に期待をすること等々、時間が許す限り、お話を聞かせて頂きたく存じます。

波部：組合の広報委員長を務める波部です。本日の進行を担当させていただきます。不慣れな点もございますが、何卒よろしくお願い致します。



今回の座談会は、各地域の支部長の皆様、そして青年部組織の京都青年印刷人月曜会や友好団体の京都印刷協和会代表者の方々との座談会を企画し、組合へのご提言をお伺いするという趣旨で立案したもので、9月に上支部・中支部・下支部・東山支部・南支部 各支部長の皆様との座談会を行っております。

今回は第二弾として、口丹支部(亀岡市・南丹市)・福綾支部(福知山市・綾部市)・丹後支部(宮津市・京丹後市・与謝郡)の各支部長、並びに支部会員の皆様との座談会を企画致しました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

業界に入られた時期、組合活動(事業)に参加するきっかけについて

波部：それでは早速ですが、本日のテーマである「組合創始130周年に向けて、“これまでのこと”、“これからのこと”」に則り、まずは自己紹介を兼ねて、印刷業界に入られた時期と、組合活動に参加することになった契機について、ご着席順にお聞かせ下さい。

内藤：組合で副理事長を務める内藤印刷株式会社



の内藤です。口丹支部の支部長を拝命しております。この業界に入り30年以上経ちますが、組合の事業に参加するようになったのは、父の後を継いだ10年位前からです。父は

地域世話役を沢山引き受けていたため、あまり組合活動に参加できなかったと聞いています。私自身は30代後半より青年部の京都青年印刷人月曜会に参加しておりました。組合活動に参加したのも、月曜会時代からの諸先輩方からお誘いを受けたことがきっかけでした。

中川：今年度、理事並びに丹後支部長を仰せつかりました、有限会社中川印刷の中川です。微力ですが、与えられた使命を務めさせて頂いております。



私は印刷業界に入る前、峰山の某企業に4年間勤めておりました。父が昭和33年に印刷業を開業(当社の創業者は私の祖父で100年以上

前の開業です。従って3度目の開業となります)したのですが、3年程経過した頃、経営状況が芳しくなかったため、当時務めていた会社に事情を説明して退職させて頂き、印刷業を承継することになりました。引き継いだ年が昭和36年だったので、それから58年経ちます。平成28年に「京の老舗表彰」を受賞しましたが、100年の内50年は私が担いできたのだと自負しております。

父の仕事を継ぐ形でこの業界に入りましたが、私の性格に合っているようです。友達からも、「中川君は印刷屋に向いてるな」とよく言われます。印刷機が動いてると楽しくて仕方がないのです。

組合活動への参加ですが、北部地域懇談会には当初から参加しています。組合には堀本理事長の時代に加入しました。入会の動機は情報収集です。地方にいと、お客様のニーズに対応できないケースが多々あり、誰に聞けば良いのかと考えたところ、印刷組合に問い合わせるのが一番との結論に達しました。困ったときは事務局さんにお尋ねしてお知恵を拝借しています。組合に加入したことは、事業を継承して会社を経営する上でも非

常に参考になりました。

小林(勝)：丹後支部に所属する三景印刷株式会社の



小林勝です。私は中学3年生の後半頃から京都市内に移住し、10年間勉学に勤しんだ後、地元に戻ってまいり、三景印刷の代表者の養子に入りました。今から40年程前になります。7月に長男に社長を

引き継ぎ、今は会長として職務を務めています。組合活動への参加は先代の時代からであり、後を継いだ私も参加させて頂いております。

小林(正)：丹後支部に所属する橋立印刷株式会社の



小林正行です。会社での役職は会長です。実は、私自身はこの業界に入る予定ではなかったのですが、父が高校3年生のときに倒れ、3学期から会社を手伝うようになり、そのまま現在に至っているという次第です。先代の時代から組合活動に積極的に参加していましたので、京都府印刷工業組合とは深い繋がりがあ

ると思っています。

会社の歴史は100年位になります。私は当社の3代目にあたり、これまで理事職や支部長職を務めさせて頂きました。組合より業界功労者顕彰や感謝状を授与して頂きました。

梅原：福綾支部に所属するあやべ印刷株式会社の



梅原です。私は当社の4代目にあたります。明治41年に開業しましたので、今年(令和2年)で創業112年になります。生まれたときから将来は印刷業を継ぐものと暗にほめかされて育ち、私もそのつ

もりでございました。業界に入った時期ですが、大学を卒業し、初めは印刷機材の総合商社である株式会社光文堂に就職しました。本当は10年間お世話になる予定だったのですが、入社して早々に先代と先々代が病気にかかり、すぐに帰らねばならないということになり、随分抵抗したのですが、止むを得ず今の会社に入社したのが24歳の時です。今から28年程前になります。

組合活動については、かねてから祖父より「組合は入って当たり前のもんや。業界の者がみんな力を合わせてやっていかんといかん」と聞かされてきたので、きっかけも何もなく、そういうものだと思っておりました。それが今に至っています。

高木：福知山支部の支部長を務める株式会社タカ



ギ印刷の高木です。私が当社で仕事を始めたのは、写植機を導入した昭和51年頃であり、弱冠23歳でした。当時の職長さんが交通事故に遭い、全治半年程の大けがをした大変な時期でもありました。

それから44年位経ちましたが、平成12年頃、DTP機器を導入した際は、印刷組合で実施していたDTPの勉強会に参加させて頂きました。また従業員にも受講させました。印刷に携わるものとして、写植やDTPの知識をきちんと習得していないと商売ができない時代だったので、組合で学ぶ機会を得たことは大変ありがたいと思っていました。

各支部地域における業界情勢について

波部：次に、各支部地域における業界情勢について、コロナ禍の現状も含めてお聞かせ下さい。

内藤：口丹支部の地域においては、コロナ禍の影響により、亀岡市の3大観光である「湯の花温泉」、「トロッコ列車」、「保津川下り」が何れも大きなダメージを受けています。この数か月は「GoToトラベルキャンペーン」の効果もあり、9月後半の週末には湯の花温泉に少し個人客が戻ったようですが、元通りには程遠いと聞いています。

商業全域を見ると、金融機関との情報交換の中ではそれほど悪い話を聞いておりません。個人的な感想ですが、京都市に比べると賑やかな地域ではないので影響も比例して少ないのではないかと考えています。或いは国の金融施策の影響で、少し資金が余剰な状況なのかもしれません。

印刷業界を見ると、どの地域も同じだと思いますが、秋のお祭りシーズンのイベントが開催できず、ポスター、周知チラシなどフライヤー関係の仕事は全て無くなりました。日頃の売上ベースで

みると、25%位減っているように思います。一方で、京都府等の補助金を活用した商店街、個人事業者からの印刷物の受注が増えています。当社では、年末頃までそれほど売上は下がらないと見ていますが、反動でその後が心配です。

中川：丹後支部地域においては、料理旅館関係が大変大きなダメージを受けてます。その影響が印刷業界にも響いてきています。一方で、内藤支部長が述べられたように、助成金に付随した行政関係の新たな仕事の見積りが増えてきていますが、問題は多くが相見積りによる入札であることです。相見積りでも競争させると価格は毎回下がっていきます。紙の価格が上がっているにもかかわらず、安い価格をベースにした落札が横行しています。これでは印刷物の受注が増えても利益は薄い。何もかも競争では地域の印刷業界は存続できません。

また、最近では行政から参考見積りの依頼が増えて困っています。印刷の見積りは非常に時間がかかります。参考見積りに時間を取られ、経営を圧迫しています。今後は参考見積りにも対価を請求したいと思っています。

小林(勝)：当社は中川支部長の隣の町(与謝郡与謝野町)ですが、行政の傾向は同じです。近くの宮津市は観光の町ですが、観光業界はコロナ過で大打撃を受けています。9月後半の四連休は多少お客様も増えましたが、土産物屋さん、飲食業、ホテル、旅館の仕事はほとんど無くなりました。当社においても、つい最近まで従業員を半数の体制で営業してきましたが、最近、少しネット販売が動き出しました。地元の仕事はほとんど無い状況が続いており、頭が痛いところです。

また、中川支部長が述べられた通り、少額でも見積り入札される傾向が確かにあります。また、中には結果も発表しない役場、市役所があります。

小林(正)：当社は宮津市の天橋立を眼下に望む立地にあります。コロナ過で観光地は大きな痛手を負っています。さらに追い打ちをかける様に、春から夏、秋、そして来年の1月位まで、毎年開いていたイベントの多くが中止となり、ポスター、チラシ、パンフレット類の仕事はほぼ全滅です。

梅原：当社は綾部市にありますが、皆様と同じような状況です。綾部は工業の売上額が商業の3倍

位大きな「ものづくり」のまちですが、製造業では多くの機械が止まっている状態であり、市全体が落ち込んでいる状況です。

先週金曜日(9/25)、西脇知事が社会経済活動を頑張ってやっというメッセージを寄せられたので、そろそろ各種イベントも本格的に再開するのではないかと思います。

高木：福知山においても、コロナ禍の影響で(令和2年)2月頃よりイベントの中止、公共の美術館や動物園の閉館等が相次ぎ、付随するチケット等の印刷物が影響を受けました。また、福知山はソフトテニスが盛んで、全国規模の大会が開催されるのですが、それも中止になりました。舞台イベントや発表会も、3月から5月にかけては全滅でした。少し救われたのは、会議が中止になっても資料は作られるということで、総会の議案書等の仕事が入ってまいりました。

官公庁関係では、主催の催し物がほとんど中止になるとともに、年度替わりにいつも発注される印刷物も、コロナ対応で職員さんの余力がないためか、必要最低限のものしか回ってきませんでした。

昨年(令和元年)においては、7月に値上げを行ったにもかかわらず、印刷の受注はかなり増え、前年対比十数パーセントの売上増となりました。3月の地方選挙、5月の改元、10月の消費税増税等が主な要因だと思います。ところが今年(令和2年)の3月から4月にかけては前年対比約40%のダウン、6月から8月にかけては同50%のダウン、9月も50%近いダウンという状況です。1月と2月はほとんど影響がなかったのですが、1月からの通算では25%位のダウンだと思います。

売上が減少したため助成金や融資が受けられる状況になり、6月からは受給手続きに奔走しました。この数か月は助成金等のおかげで事業を続けてこられましたが、この先どう対処すればよいのか悩んでいる状態です。

現状を鑑みると、自社に新たな仕事を取る力がない場合、他社が廃業する、或いは他社が事業を縮小する以外に生き残る方法はないように思います。印刷物が増える方向には絶対に進まない。この半年の間で難しい経営判断を迫られるのではないかと思います。そのための情報収集に力を

入れたいと思っています。

支部組織の活動について

波部：次に、支部地域は今後どのような活動を行うべきか、皆様のお考えを聞かせて下さい。

内藤：これまでの陳情活動を振り返ると、印刷物の価格が毎年低くなる一番の要因は、取引の形態が物品購入になってるためだと思います。一つの提案ですが、皆で請負契約に変える活動をしては如何でしょう。請負契約にすることで価格競争は緩和されると思います。

次に、口丹支部活動の事例報告をさせていただきます。レジ袋の禁止が全国的に広がる中、亀岡市では、全国に先駆けてプラスチック製レジ袋の提供禁止が条例で成立され、令和3年1月より施行されます。この度、口丹支部の行政への陳情活動が実を結び、亀岡市、亀岡商工会議所より、代替紙袋の共同購入事業の調達事業者の選定を印刷組合に依頼するという文書が届きました。その後、選出方法については口丹支部に一任され、当社が選定事業者としてお受けすることとなりました。本事例は、行政の事業が組合へ委託された初めてのケースであり、口丹支部の大きな功績だと自負しています。組合加入の大きなメリットとしてアピールもできるので、今後も行政に対し、公共の印刷物の委託を組合に相談して頂くよう積極的に働きかけたいと思っています。他地域の支部におかれても、是非とも参考にして頂ければと思います。

中川：丹後支部では、先程述べた課題を支部会員の皆様と協議し、取りまとめて要望書を作り、行政に提出したいと考えています。個々の企業単位でなく、1人より2人、2人より3人、そして業界団体という立場で要望書を持っていくことに意味があると思っています

笹原：要望書を提出される際は、是非、京都府印刷工業組合の名前も使って頂ければと思います。

小林(勝)：宮津市と与謝野町内で印刷組合に加入しているのは、今では橋立印刷さんと当社の2社のみとなりました。以前のように競争意識をもたず、同じ地域の同業者が共存共栄できるような案を考え、お互いに切磋琢磨していければと思って

います。組合に入っていない事業所とも、会って話をしてみたいと思っています。

梅原：官公需の問題は、各地区の印刷会社、或いは各市の事情により考え方が違ってくると思います。ブロック経済ではないですが、例えば綾部市において、綾部市以外の業者は誰も入れないようにすると、逆に市外へ広域展開されてる会社の足かせになる可能性があるのも、市ではそのような制約を定めることは中々できないのではないかと思います。

そもそも市内業者という明確な定義も、恐らくどの地域にも無いと思います。何をもって市内業者とするのかを決めなければならない。それらを業種、業界毎に決めるとなると、本当に大変な作業になります。下手をすると将来自分たちの経済活動を制約する可能性もあり、慎重に行動しなければならないと思っています。

しかし、本日の懇談会もそうですが、同業者間でこのようなオープンな協議ができるのが組合のいいところだと思いますし、今後もこのような協議の機会を増やし、業界内の課題解決に向けて取り組んで欲しいと思っています。

高木：福知山市の組合員は当社1社で、隣の綾部市の組合員もあやべ印刷さん1社です。以前は5社ほどあった福綾支部の組合員も、今はこの2社のみです。

支部会としての活動は、7、8年程前、京都府印刷工業組合の理事長と福綾支部長の連名により、市内業者の優先をお願いする要望書を福知山市に提出した結果、2、3年経った後、ある程度優先されるようになりました。しかし、福知山市税を納め、電話と事務所があれば市内業者と認めているのが実情です。そのような中、今後、組合として更にどのような力を発揮できるかという、現在のように構成員が1社だけでは難しいように思います。

なお、これまで何度か行政の商品券発行についての情報が組合から流れてきましたが、事前に準備ができて大変役に立ちました。本年度においても、プレミアム商品券や地域商品券の発行があるのではないかと情報を耳にしましたが、福知山市では現時点で何の音沙汰も無い状況です。情報があれば教えて頂きたい。

笹原：プレミアム商品券や地域商品券の発行に関しまして、現時点では全印工連、京都府、京都市の何れからも情報は入ってきておりません。新たな情報が入り次第、速やかにご報告させていただきます。

組合(支部)に入っていて「よかった」と思われること、組合(支部)に望むことについて

波部：次に、組合や支部に入っていてよかったことや組合や支部に望むこと、また、各事業所様の取り組み事例についてお聞かせください。

内藤：先程ご報告したように、組合が行政より事業者の選定依頼を受けるようになると、組合に入っている大きなメリットとしてアピールできると思います。これからは行政への陳情活動は続けていきたい。また、当社はオンデマンド機しか所有していませんので、オフセット印刷や後加工については外注しています。組合に入っていると、横の繋がりから組合員事業所さんに心安く仕事を発注できることも大きなメリットだと思っています。

中川：地方では、行政の仕事は非常に大きな比重を占めています。印刷をするには設備が必要ですが、その設備を導入するには、やはり適正な利益を得なければなりません。そのためにも、行政に対して最低制限価格制度の導入に向けた活動をお願いしたい。入札の際、行政では上限を超えない範囲の最低入札業者を採用します。この最低価格を見る都度歯がゆい思いがします。建設業者では制度化されている最低制限価格制度が印刷業界に無いからです。最近では1円違うどころではなく、1銭違う世界になってきています。また、2、3万円の仕事に相見積もりを取り、落札価額が1万円ということもあります。このようなことを是正して欲しいと切に願います。

小林(勝)：組合に入っていてよかったと思うのは、異業種の交流会では実現しない、同業者の皆様と深い話ができることです。印刷組合に加入することで、今回のように有益な情報を聞かせて頂くことができ、とても勉強になると感じています。

また、当社では世代交代を進めており、長男が社長に就任しました。まだ若いので、このような会合には出てきませんが、青年部の集まりがあれ

ば、若い世代の人たちも参加しやすくなると思います。

波部：印刷組合の青年部として京都青年印刷人月曜会という組織があります。是非ともご参加ください。

高木：昨年の懇談会において、当社の値上げ構想をお話ししましたところ、到底そんなことはできないという方がおられました。私も実際は大変怖かったです。しかし、それを実施しないと生き残れないと覚悟し、10%から15%の値上げに踏み切りました。その結果、値上げ前の駆け込み需要で売上が相当伸びました。また、値上げにより逃した仕事はほとんどありません。官公庁にもこれまでよりプラスアルファした価格で入札に臨みました。中川支部長が述べられた通り、大手が狙ってくる1銭、2銭の差で取り合いになるような仕事には目もくれず、お付き合いで見積りだけは入れておくというスタンスです。封筒類や大量発行されるパンフレットには一切手を出しません。仕事を受注しても利益には絶対にならないからです。少しのミスで、下手をすると大損害を被る可能性さえあります。小口の仕事を地道に稼ぐよう心がけています。今は値上げをして本当に良かったと思っています。値上げしていなければ、粗利がどんどん下がる悪循環に加え、コロナ渦による仕事の減少にとっても耐え切れなかったと思っています。

内藤：陳情活動においては、口丹支部や丹後支部は、組合員が4社所属しているので活動も行いやすいですが、福知山市や綾部市においては、各々1社しか所属していないので活動が難しいように思います。そこでご提案ですが、陳情活動に際しては、京都府印刷工業組合北部地域協議会のような名称の組織を立ち上げ、活動しては如何でしょう。

中川：陳情活動や要望書を提出する際は、1社よりも2社、2社よりも3社というように、数が多いほど効果があると思います。

内藤：北部地域全体で10社になります。口丹支部においても、これまでの4社より活動しやすくなる。是非前向きに検討していきましょう。

さいごに

波部：そろそろ予定の時間も近づいてまいりました。ここで爲國専務理事より、本日の総括をお願いしたいと思います。

爲國：今日は北部地域の組合員の皆様より様々な御意見を頂戴し、大変実りのある会議になったと思っています。



中でも、やはり行政に対する要望が沢山ありました。官公需問題は全国的にも大きな課題の一つです。丹後支部の

中川支部長より最低制限価格制度についてのご意見を伺いましたが、近畿地区の中には、積極的な活動を進めて導入を実現させた県があると伺っています。行政に陳情を行うには、事例を集めるなどの準備が必要です。皆様のご意見を参考にさせて頂き、今後の活動に活かしていきたいと思っています。

また、福綾支部の高木支部長が述べられたように、決して値下げ競争に巻き込まれない営業のスタイル。これからは、そうした考え方が主流になるのではないかと思います。印刷の仕事は地域密着型であり、お客様との結びつきのなかで情報収集を行い、お客様の悩み事を印刷物で改善する方法を考える。そこまで話を持っていければ、今でも価格ではない部分で仕事が受注できる要素が残っているように思います。印刷組合がそのような方策を提案できる団体でありたいと思います。

波部：次に笹原理事長より、令和3年5月に開催

を予定している組合創始130年記念事業についてご説明させて頂きます。

笹原：令和3年5月29日(土)、組合創始130周年記念式典を京都市内のホテルで開催する予定です。組合員の皆様にお集まりいただき、創始130周年をともに祝いたいと考えております。当日は、組合の通常総会、並びに組合功労者顕彰式、優良勤続従業員表彰式を併催する予定です。周年行事としては、10年前、地下鉄烏丸御池駅構内に「京都印刷発祥の地石碑」の建立式を行って以来となります。具体的なことはこれから検討してまいりますが、組合員の皆様の心に残る、記憶に残る取り組みを行ないたいと考えています。一例を挙げると、我々の産業である「印刷」が、この先130年後も洋々と迎えるためにはどのようなことをすればよいのかについて、「未来宣言」のような提唱ができればと考えております。130年積み上げてきた「過去の130年」と、これから先の「未来の130年」。私達の産業が途切れることがあってはいけません。もしかすると姿形は変わるかもしれませんが、工夫をして、130年後も組合員の皆様の会社が残っているための提案を発することができればと考えています。

波部：まだまだお話は尽きないところですが、このあたりで了えさせて頂きたいと思います。本日はご多忙の中、北部地域懇談会、並びに支部長各位との記念座談会にご出席賜り、そして貴重なご意見、ご提言を聞かせて頂き、誠にありがとうございました。今後とも組合の広報事業にご協力、ご支援をお願い致します。

(文責・編集委員会)

